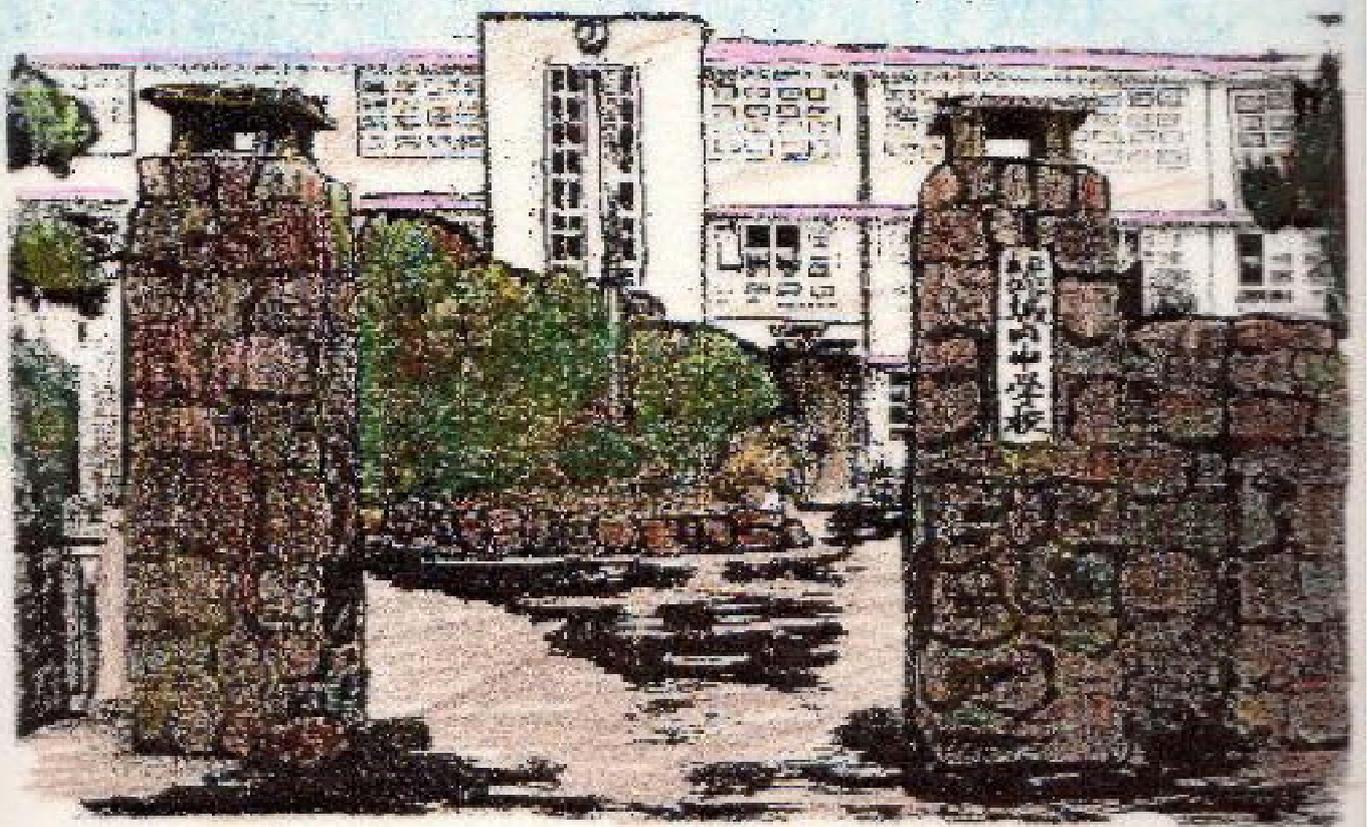


こころ  
の  
なかに



思い出の下志の頃.....

尼崎市立城内中学校閉校記念

2005.3.31

校訓

創造・協同・自主



城内中学校校歌

黎明の空 紺青の  
かすみたなびく 長洲野に  
群の塵を はなれ来て  
集いし我ら 域中生  
久遠のゆめを 胸にひめ  
清きいのちを 培かわん

ああうら若き 我が友よ  
この三年こそ 人の世を  
こよなく深き 想い出を  
理想に結ぶ 縁なれ  
たとへ年月 過ぐるとも  
忘るるなかれ 今日の日を

第44回卒業生 贈

## 城内中学校の閉校によせて



尼崎市長  
白井 文

このたび、城内中学校は、育英中学校と統合し、新たに「尼崎市立成良中学校」に生まれ変わろうとしています。

統合という重大なことがらに対しまして、学校や保護者、地域の皆様方が、子どもたちの観点にたち、ご理解とご協力をいただきましたことに、大きな感謝と敬意を感じております。

城内中学校は、新制中学校が発足した昭和22年に誕生し、以来58年間、変動する社会情勢の中で、様々な困難を乗り越えて、多くの優れた人材を輩出してこられました。これも、地道な努力を積み重ねられた歴代校長を始めとする教職員の皆様方や、惜しみないご協力、ご支援を賜った保護者や地域の皆様方のおかげと深く感謝しております。

新しい学校が、城内中学校の輝かしい伝統を引き継ぎ、地域と手を携え、更なる発展をとげられるとともに、子どもたちが困難な時代を生き抜き、新しい時代を担ってくれる心豊かな、たくましい人間へと育ててくれることを願っております。

## 城内中学校の閉校によせて



尼崎市教育委員会  
教育長 保田 薫

城内中学校は育英中学校と統合し、新たに「尼崎市立成良中学校」に生まれ変わります。

本校は、新制中学校が発足した昭和22年に城内小学校や開明小学校を仮校舎として設立されました。以来58年、育英中学校の分離や3度の移転を経て、文字どおり尼崎城の城内に位置する学校として、着実な発展を遂げてこられました。

また、「自主・協同・創造」を校訓として積極的な学習活動を展開され、輝かしい伝統を築いてこられました。これもひとえに歴代の先生をはじめとする教職員の皆様のご尽力や、保護者や地域の皆様の惜しみないご協力・ご支援の賜物であると、ここにあらためて、深く感謝申し上げます。

このたびの学校統合におきましても、保護者や地域の皆様が子ども達の良好な教育環境を最優先に考えていただき、並々ならぬ御理解と御協力を賜りましたことに心から感謝いたしております。

生徒の皆さんにはこのような城内中学校の歴史や伝統を大切にされ、誇り高き成良中学校の生徒として新たな歴史を築いていただきたいと願っております。

## 閉校にあたって

－「ありがとう・さようなら・城内中」－

学校長 前田 耕一

表題は昨年「城中最後の体育大会」組体操の3基の「人塔」から降ろされた垂れ幕の言葉です。

皆様もご存じの通り、尼崎市の小中学校の適正規模・適正配置の施策により、城内・育英中が新設「成良中学校」へ統合されることになり、今年平成17年3月31日をもって我が城内中学校は残念ながら閉校となります。

58年間の城内中学校の歩みは、卒業生、教職員はもとよりPTA、尼崎市教育委員会を始め、地域や関係機関など多くの方々のご努力とご支援によって発展してきたものです。小規模校になった今も、小さな学校でも「きらりと光る」ものを大切に教育に邁進して参りましたが、いよいよ城内中学校のしめくりです。

改めて城中に係わられた全ての方々、お力をいただきました関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます。

卒業生を始め、教職員・PTA・地域の皆様の学びと出会い、懐かしい思い出等々の「心のふるさと」であった城中、さようなら！城内中学校！いよいよお別れです。

在校生は新しい成良中学校の一員として活躍できる生徒として、また卒業生は最後の城中生としての自覚を持って4月からの新しい門出に幸多かれと祈っています。

地域の皆様、PTAをはじめ本校に関係する皆様のご協力をいただきながら、58年という長い歴史を閉じる城内中学校に感謝し、在校生、卒業生、教職員はもとよりPTAや地域の皆さんとともに伝統ある城内中学校にふさわしい幕を閉じていきたいと思っております。

そして成良中学校が地域の学校としてこれまでも増して、輝かしい校風と歴史を形成し、更に発展する出発点になるようお願い申し上げます。

## 閉校によせて

－「城中と私」－

PTA 会長 橋本 智子

平成13年8月の尼崎市小・中学校の適正規模・適正配置の答申に基づき、城内中もいよいよ来年度統合する年になりました。

新しい学校に生まれ変わるといのは、とても嬉しい事です。その反面、58年続いた城内中学校の名がなくなってしまうのは、とても淋しい限りです。

私にとって城中は、母校であり、4人の子どものうち、3人の子がこの城中に通わせていただきました。

城下町であったこの地は下町の風情が残り、地域の結びつきが強く、みんなが幼なじみといった暖かい心が通う学校です。

その良さを忘れる事なく、この地に城内中学校があった事や城内中学校での思い出や出会いが城中に関わってくださった先生方や卒業生、地域の方々によって語りつがれる事でしょう。

青春の一ページ。中学生という多感な時期をこの城中で過ごした事は、私にとって宝物です。

そして、今まで城中を支えてこられた歴代の先生方々に心よりお礼申し上げます。

そして、新しい成良中学校が、育英中、城内中、両校の良さを取り入れ、すばらしい学校になります事を心より祈願いたします。

城中 PTA に関わった7年間、人との出会い、子どもと共に成長した楽しい思い出を大切にしたいと思っております。

最後に「城内中学校ありがとう。」

そして「さようなら。」

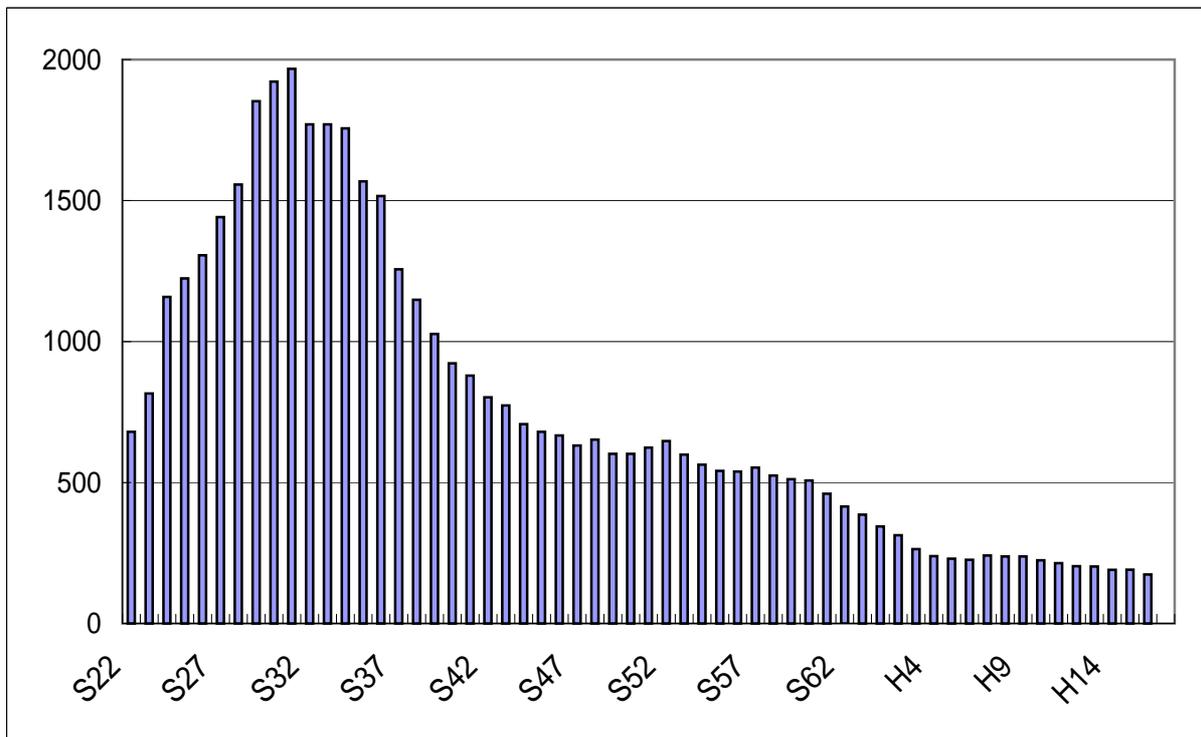
# 城内中学校沿革史

昭和22年	4月1日	尼崎市立城内中学校創設
	4月22日	初代校長 中屋 祐 着任
23年	8月31日	第2代校長 高橋 英雄 着任
25年	4月18日	新校舎（第1期工事）竣工（西長洲東通4-40）
	7月18日	新校舎（第2期工事）完成、分校は本校に収容
26年	3月15日	校歌ならびに応援歌制定
26年	4月1日	校区変更 金楽寺小学校を編入
	9月10日	校旗制定
27年	4月1日	第3代校長 榎本 健三 着任
28年	3月9日	尼崎市教育委員会指定「養護教育」研究会開催
29年	4月1日	第4代校長 伊藤 優 着任
32年	3月1日	第5代校長 増田 正 着任
33年	4月1日	第6代校長 細見 実憲 着任
35年	4月1日	第7代校長 坂下 収 着任
	5月16日	育英中学校設立にともない、金楽寺、開明小学校区の生徒を分離
38年	4月1日	第8代校長 徳永 信三 着任
	11月18日	尼崎市教育委員会指定社会科研究会「郷土学習について」開催
39年	4月8日	新校舎に移転（尼崎市北城内47 市庁舎跡）
41年	8月31日	新校舎に移転（尼崎市南城内11 尼崎市立尼崎高等学校跡）
41年	11月22日	第8回兵庫県視聴覚教育大会中高会場（公開授業）
42年	7月17日	プール完成
42年	8月1日	第9代校長 安藤 武男 着任
44年	4月23日	体育館兼講堂 竣工
45年	4月1日	第10代校長 増井 元 着任
48年	4月1日	第11代校長 戸田 誠寿 着任
52年	4月1日	第12代校長 前瀧 一彌 着任
55年	3月24日	柔剣道場完成

55年	4月	1日	第13代校長 井関 巖 着任	
55年	11月	18日	尼崎市教育委員会指定「体力づくり」研究会開催	
59年	11月	1日	文部省指定「生徒指導」本発表会開催	
	11月	1日	尼崎市教育委員会指定「学力向上」研究会開催	
60年	4月	1日	第14代校長 海藻 道夫 着任	
61年	4月	1日	標準服をブレザーに替える	
	7月	14日	尼崎市教育委員会指定「中学校区別生徒指導推進事業」(3カ年)	
62年	4月	1日	尼崎市教育委員会指定「教科指導研究推進校」(2カ年)	
63年	4月	1日	第15代校長 河野 誠一 着任	
	4月	1日	兵庫県教育委員会指定「きょうだいづくり運動推進校」	
	4月	1日	兵庫県統計協会指定「統計教育研究校」(2カ年)	
63年	11月	27日	尼崎市教育委員会指定「教科指導研究」「中学校区別生徒指導推進校」研究発表会開催	
平成元年	11月	21日	尼崎市中学校英語教育研究発表	
	3年	12月	20日	視聴覚室・コンピュータ室(新設)完成
	5年	4月	1日	第16代校長 里見 一郎 着任
	8年	4月	1日	第17代校長 上和田 忠 着任
	11月	6日	創立50周年記念式典挙行	
11年	4月	1日	第18代校長 近藤 偉一郎 着任	
	7月	1日	門扉改修	
12年	4月	1日	尼崎市教育委員会指定「教育課程」(2カ年)	
13年	11月	21日	尼崎市教育委員会指定研究発表会開催	
14年	4月	1日	第19代校長 前田 耕一 着任	
16年	9月	28日	統合にともなう教室等改修工事完了	
17年	3月	7日	統合記念講演会開催	
	3月	25日	閉校式典挙行	

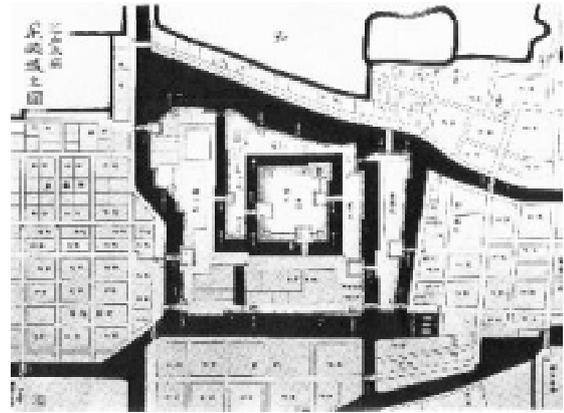
## 城内中学校生徒数推移

年度	生徒数	備考	年度	生徒数	備考	年度	生徒数	備考
S22	680	城内中学校創設	S42	802	プール完成	S62	415	
S23	816		S43	773		S63	386	
S24	1,158		S44	707	体育館竣工	H1	344	
S25	1,224	新校舎完成	S45	680		H2	313	
S26	1,306	校歌制定	S46	667		H3	264	
S27	1,441		S47	631		H4	239	
S28	1,557		S48	652		H5	230	
S29	1,852	校舎増築	S49	602		H6	226	
S30	1,922	移転	S50	602		H7	241	阪神淡路大震災
S31	1,967		S51	624		H8	238	創立50周年式典
S32	1,770		S52	647		H9	238	
S33	1,770		S53	599		H10	224	
S34	1,756		S54	563		H11	214	
S35	1,568	育英中を分離	S55	541	柔道場完成	H12	203	
S36	1,516		S56	539		H13	202	
S37	1,256		S57	553		H14	190	
S38	1,148		S58	525		H15	191	
S39	1,027	移転	S59	512		H16	174	閉校式典
S40	923		S60	507				
S41	879	現在地に移転	S61	460	新標準服制定			



# 城内中学校の周辺の変化と現在

## 尼崎城跡

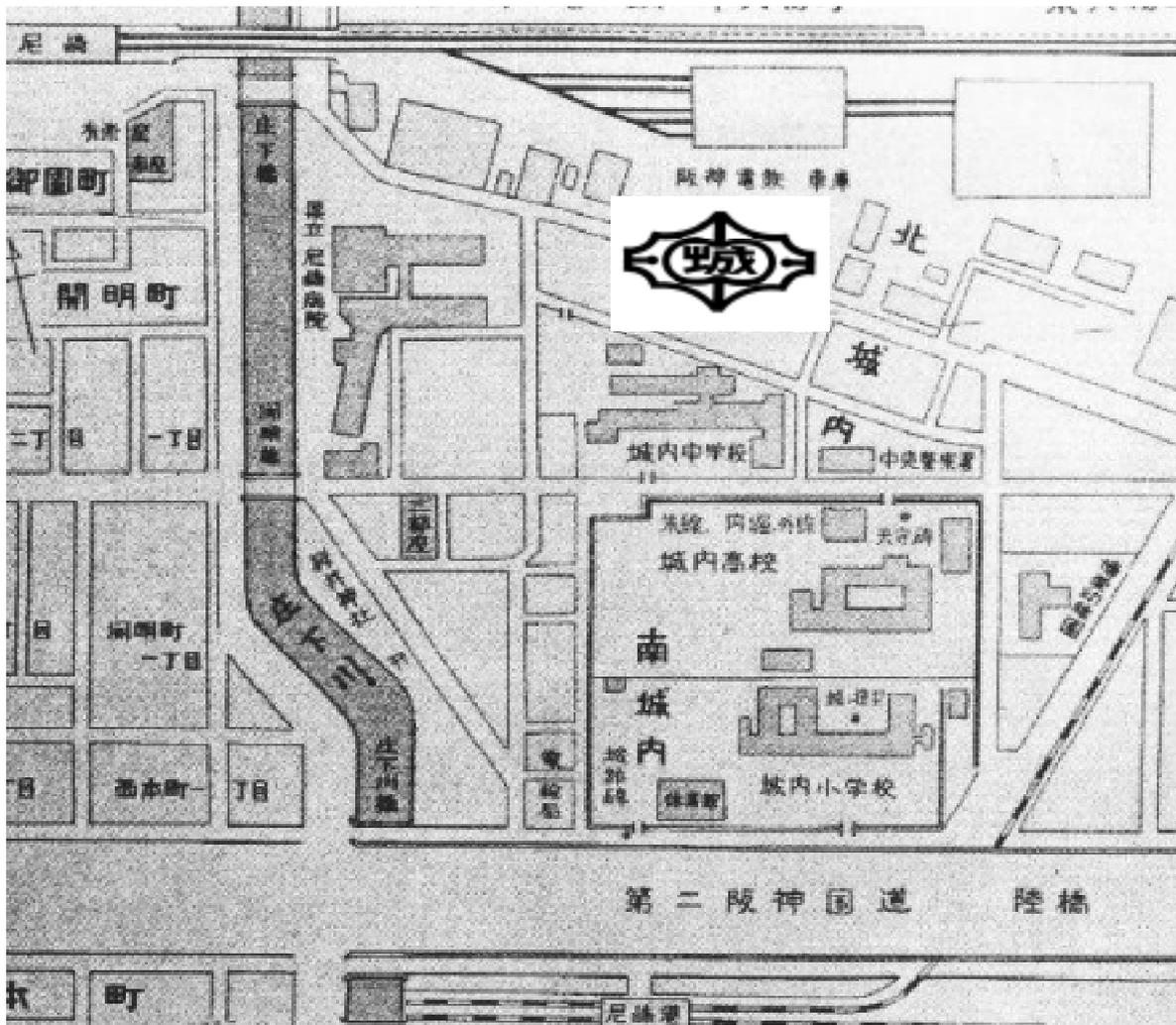


「城内」の地へ

西長洲東通4-40より

昭和39年4月8日 北城内47 旧市庁舎跡(現 城内高校)へ移転<下图>

昭和41年8月31日 南城内11番地 市立尼崎高校跡の現地に移転



# 現 城内中学校周辺

昭和46年(1971)撮影



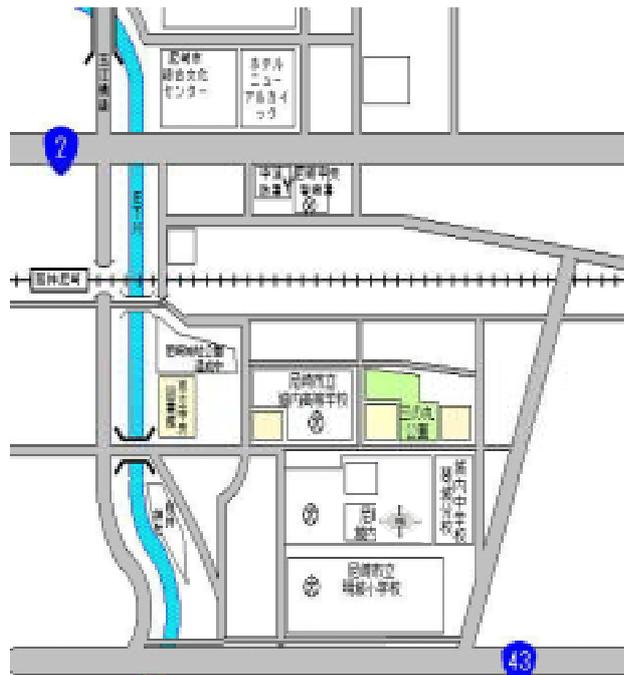
平成14年(2002)撮影



城内高校



中央図書館



琴城分校



桜井神社



博愛幼稚園



懐かしいポスト



生徒会有志壁画作品  
43号線地下道



明城小

# 懐かしい城内中学校の写真集

仮校舎時代 昭和22年4月1日創設～ 城内小に本校、開明小に分教場

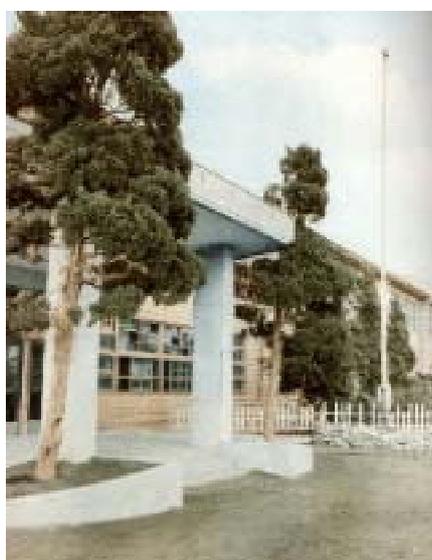


写真は城内小学校（現 明城小学校）の仮校舎にて  
後ろに小学校の百葉箱が見える

後ろの校舎が現城内中で当時は市立尼崎高校  
昭和25年の新校舎完成の7月18日に分校解消



新校舎時代 昭和25年4月18日第一期 7月18日第二期 新校舎完成  
尼崎市西長洲東通4-40（現育英中の地）



市庁舎跡時代

昭和39年4月新校舎 北城内47の市庁舎跡（現城内高校）へ

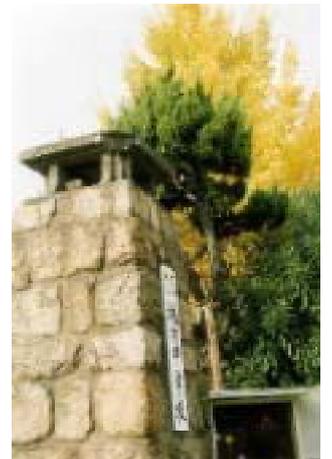


# 城内中学校校舎の写真集

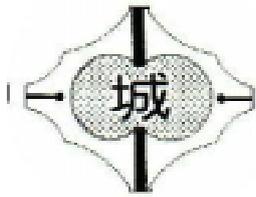




平成16年度校舎配置図



# 思い出のアルバム



城中最後の  
第58回体育大会

組体操

ありがとう



城 内 中

さようなら

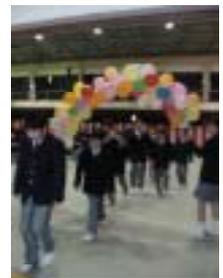


# 城中の年間行事

入学式



生徒総会



宿泊学習





# 修学旅行 長崎



平和公園

吉野ヶ里



## がんばった！ 6/9~6/13 トライやる・ウィーク 24事業所の皆さんありがとうございます！！



## 体育大会



## 新潟中越大地震・豊岡水害募金



## ユニセフバザー



## 生徒会役員改選



## 文化発表会



中学校総合体育大会



中高合同音楽祭 アルカイクホール



心肺蘇生



学校演劇祭



新春カルタ会



ピッコロシアター 一年生

ロードレース



卒業式



# 部 活 動



卓球部全国大会へ

野球部



サッカー部



バレー部



バスケット部



音楽部



美術部



ESS



水泳部



# 地域と地域に



築地公園開き



薬物乱用防止



総踊出演



ピッコロシアター演劇祭1年出演



ユニセフバザー



43号線地下道  
壁画作品  
生徒会有志



みんなで参加 体育大会

防犯グッズの前かごカバー制作配布



みんなで  
フォークダンス

博愛幼稚園の園児たち



明城小の6年生



# 想い出集



## 学童疎開の話（城中のできた頃） 創立早期時の教職員 小川 直幸

城中の創立当時、それは私もいませので詳しいことは分かりません。それまでの学校制度とは変わり、小学校卒業生全員が中学校（新制中学校）に入って来ることになりました。その頃の思い出話といえは多々あるんですが、とりわけ生徒の話してくれたことなかで、特筆すべきことは、この話になります。

それは学校の授業が終わり、放課後のことです。たしか、新校舎（木造の）は、まだできていませんので、城小か市尼の仮校舎であったように思われます。

その教室に、何人かの生徒が残っていて、「先生面白い話したろうか」と切り出してきたのです。「面白い話いうて、何の話」「面白いねん、それがオモシロイねん」「ふうん、どんな話」「あんな、疎開の話やねん」「何が面白いの、疎開いうたら、小学校の時の田舎へ疎開しとった話やろ、そんな時、面白いことあったん、第一疎開に行って何をたべとったん」



こうなるとすぐに食べ物のお話が出ます。その頃の日本人はまだまだ、飢餓線上を彷徨していました。「疎開しとって、腹へったやろな。」「そら、むちゃくちゃお腹へったよ。」当時子どもでも大人でも毎日食べるのがやっとでした。「そんな時どうするの。」「疎開先はだいたい、田舎やろ、勉強がすんで、先生に連れられて、田んぼや畑の中を歩くんやん、そんな時に畑になっているのを、そおと取るねん、先生にわからんようにな。胡瓜やろ、トマトやろ。」「なすびは・・・」「そんなんとったかな・・・それをポケットにそおと入れて、持って帰るねん。寝てから食べるねん。」「よう取らん子はどうするの。」「取った子があげてたんやと思うわ。」

どうやらこの子らは、野菜のたくいを夜布団の中で、生でかじっていたようです。まあこれ以外に、大根、芋（サツマイモ、ジャガイモ）などもあったと思います。

「それぐらい・・・面白い話いうて。」「本当に面白いのはな、疎開先から脱出する話やねん。」「何で脱出するの、脱出してどこへ行くの。」「家へ帰るねん。」そこで私たちが分かったことですが、疎開した子どもたちが本当に思っていたことは、家に帰りたい、親に甘えたいの一心だったのです。もちろん尼崎に帰ったって、激しい空襲がありましたし、安全とはいえません。食料もおそらく無かったでしょう。

「あんなあ、先生や皆で、町に出るやろ、そんな時が日曜日とせんかいな。町で同年配らしい子どもが、両親と歩いている、そんなん見たらあかんねん。」

とにかく、帰りたい一心になるようです。「脱走がバレたら連れ戻されるやろ。」「そらそうや、それをわからんように逃げるねん。」・・・宿舎を逃げ出す、それは朝か昼か夕方か、それは聞きませんでした。

尼崎の疎開先は主として、福知山線の沿線、とりわけ篠山付近が多かったようです。そして宿舎はお寺等が中心であったと思います。

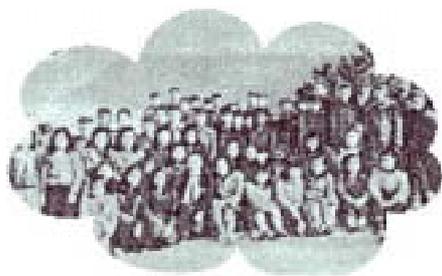
「汽車の駅に行くねん、汽車に乗らんと帰られへんもん。駅にぼやっしとったら、すぐ見つかるやん。そやからな、かくれてんねん。」「どこへかくれるの」「田舎の駅いうたらな、必ずと言っていいほど、山間か、片方が山のところが多いねん。そやからその駅がよく見える山陰にかくれてんねん、汽車が来るまでな。駅なんかに入ったらあかん

でえ。」 「汽車が来たらどないすんの。」 「汽車が駅にとまる、その前に山から全速力で、走りおりるねん、田舎の駅いうたらたいてい、低い柵があるやろ、それを乗り越えて汽車には、入り口から乗らんと窓から飛び込むねん。(当時はそう珍しいことではない。) 乗ったら通路にいないで、座席の下へもぐりこむねん。わからんようにな。」 子どもが逃げたと言うことで探しに来るようですが、その頃の汽車は、本数も少なく、車内は相当に混んでいたと思われます。そんなことはまあ、脱走の成功に味方したかもしれません。

「汽車が出たらどうするの。」 すぐには出ないそうです。「2つか3つ駅を過ぎるやろ、それからそおっと這い出すねん。」 「周りの人に変に思われるでしょう。」 「ちょっと変に思っているやろけど・・・何にも言われへん方が多いわ。」 「そんな時誰か助けてくれた。」 「オバアチャン(もちろん乗客の一人でしょう)が私を見て『どないしたん』と話しかけてくるねん。そいでそんな時オバアチャンはかならずと言っていいほど、お弁当を持ってはるねん。」 戦争中の汽車、汽車の中も、駅も何も売っていませんから、老人は皆、弁当持参です。この生徒の話では「あんた、お腹へっているやろ。」とおにぎりをごちそうになったようです。老人から子どもを見れば、皆孫のように見えたのかもしれません。

「それでな、尼へ帰ってきて、家に帰ったら、お母さんが『あんたどないしたん。』とびっくりするねん。」 「逃げてきてん。」 「先生に怒られるで、しゃあないなあ」 それでもこの話では『あんな嬉しい事は無かった』とっていました。・・・所詮また先生が迎えにこられて、疎開先に戻るわけですが、・・・「戦争が終わって疎開から帰れたやろ。」

『帰れたよ、うれしかった。』『尼に帰ったら家あった?』これは空襲で焼かれていますから、その頃の常用語であったような気がします。なかには「無かった」という子もありました。誰々さんは脱走をよくやったと言う話もありました。



疎開の話聞いたその時の教員も一人二人と亡くなって、今では誰が知っているかなと思います。脱走の善悪を問えば、戦争の善悪にも発展します。小学校の子どもがこれくらい、頭が働き、考え、すばしっこいことを初めて知らされた話でした。ちなみにその頃、この話をしてくれたのは、女生徒でした。服装はモンペの子が多く、紺がすりの古い着物をモンペと上着にしたもの、それも親御さんがミシンで縫ったものか、

#### <初めての修学旅行>

多くは手縫いのものであったと思います。男の子は何を着ていたのか。学生服なんかもありませんから、みな私服です。女子の中にはズボン(スラックス)、スカートの子もありました。

戦争が終わり平和が戻り、疎開の話も昔語りになった新制中学校。放課後の教室では、生々しい疎開の体験談に皆が笑ったのが、今も鮮やかに思い出されます。何もモノは無かった時代ですが生徒は元気でした。親御さんも新しい平和をつかみ取っていった時代です。その生徒たちも、もう70歳前後になったと思います。よきオジイチャン、オバアチャンになっていることでしょう。「お孫さん、おげんきですか。」



## 城中一年生の思い出

## 第5回卒業生 井筒 孝一郎

城内小の校舎の東側半分に城内中学の仮校舎がありました。当時小学校と中学校の境のところの廊下は、ベニア合板の壁と片開きのくぐり戸で仕切られていました。また開明小には城内中の分校があり、学芸会などはその講堂でやっていましたが、練習は体育館がなかったので屋外でしていました。そのため、いざ練習となるとみんなで早めに出向いていき、校庭の石ころや雑草を取り除いたりしたものでした。

学校といえば時間ごとのチャイムの音がすぐに思い浮かびますが、鳴らないこともよくありました。そんな時には、用務員さんが手動の鐘を鳴らして校内を回られていました。

授業のなかで私が最も興味があったのが音楽でした。南に面した音楽室は日当たりが良く、明るい室内にはきれいなグランドピアノが一台ありました。教室には多くの物があり、少々狭いなかでの授業でしたが、音楽を担当されていた岩竹先生がロシア民謡とか教科書に載っていない歌曲を丁寧に教えて下さいましたので、音楽の時間は、私にとって楽しい授業の一つでした。

また体育の授業は現在と違い、ほとんどがグループに分かれての自主練習が多く、雨が降った日などは、廊下に並べて置かれていた卓球台にみんなが長い行列を作り、順番待ちをしたものでした。



放課後には時々先生方と生徒たちが同じスポーツをして汗を流す事もありました。参加人数も顔ぶれも毎回代わるこの「スポーツ交流」は今でも楽しい思い出になっていますが、この頃は「運動部」といわれるようなクラブは、まだなかったように思います。

当時学校の北西門を出た所には尼崎市役所があり、その裏手には市の図書館もありましたから、よく何人かの友人と二階にかけ上り、そこから寺町方面に続く本町通りの家並みを眺めたものでした。

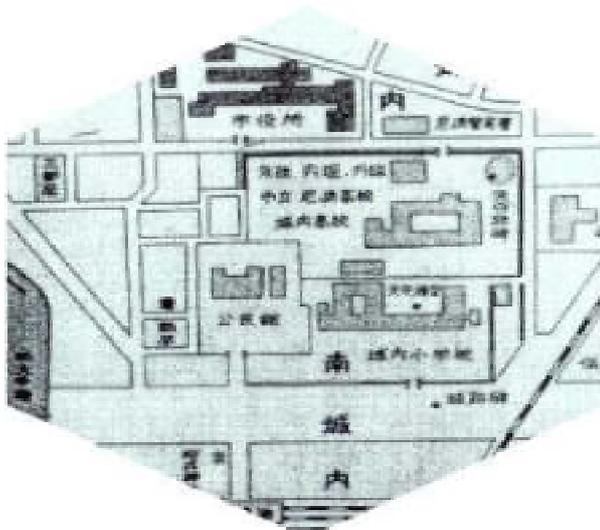
夏になり泳ぎたくなっても、学校にはプールもなく、武庫川や近くの川に泳ぎに行くことが多かったです。夏休みのある日などは、友人と中島の干潟に渡り、「貝採り」に挑戦したこともありました。

秋になると、担任の矢間先生に引率された私たちのクラスは、上ヶ原の浄水場まで行ったことがありました。途中、広田神社近くにあった先生の知人のお宅へみんなで訪れ、担任の先生とクラスのみんなで、楽しい秋のひと時を過ごしたこともありました。

このように私たちのクラスは、アットホームでまとまりのいいクラスでしたが、担任の矢間先生が新校舎の完成を待たずに、実家のある枚方へお帰りになってしまい、私たちも寂しい思いをしたのでした。



しかし、この頃はとにかく元気なクラスメイトに囲まれ、何をしてもとても楽しい仮校舎での最後の一年間であり、二年生からは新校舎での授業が始まったのでした。



11年間も送金続く  
名前わからぬナゾの先輩



### 城中の思い出 中川 重子

私の中学生の頃、城中は長洲の地にあり、木造校舎でした。城内小と、開明小と、金楽寺小学校の卒業生達と一緒に。一学年で、12クラスあり、クラスの人数は55名程でした。その頃は「いじめ」等なく和気あいあいとし、にぎやかで、楽しい学校でした。先生方にも、「あだ名」が付いていました。「トンビ」「チョコ」「花王石けん」等、今、思うと、大変失礼な事を言っていたと思います。卒業後、同窓会は数回行きましたが、今でも中学生の頃の友だちに会えば「同窓会したいね」と話をします。それほど楽しい中学生時代でした。時は移り、城中も城内に移りました。私の子ども達も城中でお世話になりました。私は四年間、育友会の会長をさせて頂きました。お陰様で、校長先生を始めとし、多くの方々と知り合う事ができよかったです。

城中は閉校となり、寂しく思いますが、成良中学校に幸多くあれとお祈り致します。

### 城中の思い出 OB 会会長 波多 正文 昭和38年卒

私が昭和35年に入学した時には、城内中学と育英中学校が分離した年でした。城内中学は木造で同じ敷地内に新築の育英中学が建ちました。分離しても生徒数は多く、城内中学の1年生は8組もあり、団塊の世代で、今から思うと想像もつかない程の生徒の数でした。城内中学の思い出と言えば、クラブ活動で夕方遅くまで野球の練習をしたり、名物先生がおられ、宿題を忘れて、質問に答えられなかったら、熱いピンタが飛んで来る。でも先生は放課後になると生徒の家を廻って、勉強の様子など見ておられました。先生方の熱い思いを懐かしく思い出します。「教え育まれた」城内中学生の頃は、人間としての基礎作りの時であったと思い出されます。



今、城内中学校は無くなりますが、熱く教え育まれた精神は、いつまでも続くものと思っています。

## 城中の思い出 昭和35年度教職員 小林 巖 (前尼崎市教育長)

黎明の空紺青の かすみたなびく長洲野に

都の塵をはなれ来て 集いし我ら城中生～

と歌い継がれた戦後70年の歴史を持つ城内中学校が再び生まれ変わろうとしている。

昭和35年春、鳥取の片田舎から大学を出たばかりの青年教師として最初に着任したのが旧城内中学校(西長洲東通4-40)であった。

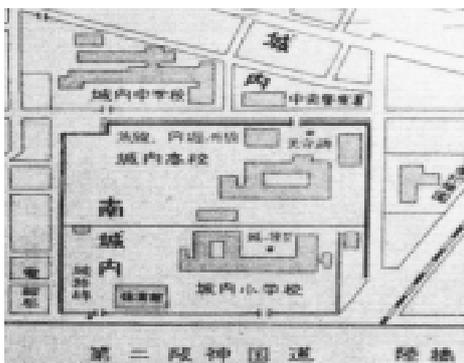
都会での生活経験のない私には、尼崎とはまさに別世界であった。人の多さと騒音の激しさ、それに加えて、ポタン雪が降るように煤煙が降っていた。

最初に受け持った学年が3年2組で金楽寺小、開明小そして城内小の3校と一緒に学習する最後から2番目の学年であった。

昭和35年といえば、終戦時の生まれでベビーブームの始まった時代である。尼崎市においても育英中、若草中、啓明中が開校した時代である。その当時は体育館がなく、総合文化センターの前身である文化会館で卒業式を行った。しばらくすると、校庭の南側に育英中学校の鉄筋校舎が建設され始めた。窓ガラスもまともでない木造校舎で学習する生徒たちとうらやましく眺めていたものだ。

私がまだ新米教師であったためか、生徒たちにとって分離だとか、移転などかというような話題はほとんどなく、城中生として元気に活動していたように思う。

敷き地内に「育英中」  
「ひがみ」心配はおとなだけ



昭和39年はタイガースが小山・村山・バッキーでリーグ優勝し、東京オリンピックが開催された年である。この年、新城内中学校は城内の地、旧市庁舎へと移転をした。古いながらも、歴史的な重みのあるコンクリートの校舎であり、小さいながらも講堂兼体育館もあり、新設校的な雰囲気ですべてが始まった。

私はこの年でもって転勤となった。そして時が流れ教育委員会で仕事をするようになった。ここで、分離当時に勤めた城内中学校と育英中学校を統合しようとする計画に携わることになったのも何かの縁であろう。

## 私と城内中学校

## 景山 菊江

昭和34年に私は淡路島の小学校を卒業し、転校生として都会の中学校がどんなものかわからず、城内中学校の入学式の時、田舎育ちの私は生徒数の多いのにパニックになってしまいました。

小学校では、2クラス80人前後でしたので、時代は高度経済成長期、各家庭にテレビなど電化製品が普及し始めた頃だったと思います。第一期学校荒廃、新聞によく載り、先生も怖かった。今でも顔が浮かんでくる。友達もなかなか出来ず、近所の先輩の人と一緒に通学、クラブ活動もせず帰宅部、都会の生活に慣れる事が精一杯だったので、勉強はついて行けてません、恥ずかしい話ですが・・・3年間はあっという間に過ぎました。

28年後、平成元年、長男が3年生から城中にまたお世話になる事に。次男が入学してから育友会活動にも参加させて頂き、働きながらでしたので十分な活動は出来ていませんが、生徒数が少なくなっていく中で、クラブ活動が出来ないクラブが相次ぎました。校長先生にご苦勞をお願いして、子供たちが卒業するまで続けさせて頂いたのが思い出に残っています。育友会活動で多くのお母さん達と友達になれ、今も親交を深めています。母校が失うのはとても残念です。

### 城内中学校の思い出

### 昭和39年度の教職員 山田 義哲

私は、昭和三十九年四月十六日に城内中学に着任することになり、城内中学校の様子や生徒たちとの接し方について、いろいろ考えながらに向かって行くと、右手に大きな運動場が見えました。これが城内中学校だと思つてそうではなく、左側に小さな城内中学校の校門があり一寸迷いましたが、校門か(この時の校舎は現在城内高校として使われています)ら玄関へ入って行き、生徒に校長室を尋ねると、二階だと教えてくれました。二階に上がり校長室に於いて辞令を校長先生にお渡しして着任の挨拶も終わり、校門に入った時から気になっていた学校全体に落書きがない様子をお尋ねすると、校長先生からこの学校は三月に移転して来たばかりで、教室、施設、教材、備品等も整っていない、その為にザワついて落ち着きがなくて驚かれたと思うが、先生方の協力を得て本来の学校にしたいので、貴方の力も貸してほしい、その言葉に感動し微力ですが私もお手伝いさせて下さいと言いました。校長先生の話も済み、教頭先生と教務主任の先生のお二人から学校についての説明と所属学年が告げられました。

私は一応自分が授業をする場所の確認に校内を見回って驚き、明日からの授業をどのよ

うにすればよいか悩みました。正常な授業はできなくても、生徒の心に触れ、身体が動かせる広場はないものかと、小さな校庭や講堂を見つけ授業への心構えを新たにすることを記憶しています。

四十年三月末日に私は徳永校長先生に授業や生徒の関わりが不安で退職も考えていると

報告しました。校長先生はもう一年頑張ってくれ、来年の事は相談させて貰いますとの返事でした。私も生徒達の明るく純真で楽しく授業を受けている姿が忘れられず、今年も頑張ろうと心に決め校長先生に伝えて、以来転勤するまでの十二年間お世話になりました。

四十一年八月、市立尼崎高等学校跡(現在地)に移転することになり、全校生徒は自分の机、椅子を持って新校舎に運び、休む間もなく各学年の教材、備品等を二度三度と往復し搬入したことを思い出します。運動場も広くなり、生徒達の活動意欲も高まり、クラブの種目を増やしてほしいとの要望で私は柔道部、剣道部と二つの部を同時に立ち上げ練習時間の調整に汗を流した覚えがあります。

野球部、陸上部、サッカー部、バスケット部、バレー部と多くのクラブが誕生し運動場では、生徒達の明るく生き生きとした声が響き渡り、多くの先生方も顧問となって指導に当たり生徒の生活態度も改善され明るく、楽しい学校へと変わっていったのが昨日のよう



に思い出します。

四十三年にはプールも完成し続いて四十四年には体育館も施工して普通の学校としての姿が整いました。それに伴い生徒達も城内中生として対外試合でも胸を張って活躍していたのが目に浮かびます。

## 落ち着き取り戻す

・ジブシー生活、に終止符



四十六年から若い先生方が着任され、学校の雰囲気も明るく先生と生徒の信頼関係も深

まり、落ち着いた学校へと変わりました。

此の度、城内中学校と育英中学校が併合され、成良中学校と生まれ変わりますが、城内中学校で培われた精神を忘れずに、新しい学校を作り上げて下さい。

私は今、城内中学校での十二年間を思い出しながら生徒達の顔、名前と、その頃のいろいろな出来事が走馬燈の様に頭の中を駆け巡っています。

私の心の中では中学校教師としての原点は城内中学校であり、今も心の故郷として思い出すのは城内中学校であると確信致しております。

## 城内中の思い出

昭和 46 年教職員 宮中俊夫

昭和 46 年から 5 年間お世話になりました。

対馬の田舎から都会の尼崎と大きく環境の変わった教師生活を送りました。学校は”荒れ”の状況にあった時代でしたが、当時の 3 年生がなついてくれたので尼崎での教師生活とともに、城内中学校とも卒業することができます。

シンサイ刈がはやっていて剃り込みを入れた気合の入ったサッカー部、女子バスケット部など強い部がありました。

私は柔道部と水泳部を持ちましたが、城中らしからぬ？生徒がいたのでびっくりしました。部活と夜は城内高校空手道部に週 3 回行ったり、城内校区内にいる時間がたくさんありました。また、生徒会はガラス磨きをしようという運動をしていました。この活動はすばらしく、当時城中を知るある人が「ガラスがはまっている。それもきれいに光っている」とびっくりしていらっしゃいました。

技術室の荒れも一ヶ月ぐらい生徒と掃除をし、機械を磨きやっとな機械も部屋も使えるようになり、当時の 3 年生が協力してくれた事が赴任最初の年の大きな思い出です。

このことが私を尼崎で仕事をし続ける大きな力になりました。



次に何でもできたといいますが、「築地だんじり祭り」の夜は当時の先生方はまず行かないところでした。今は補導で行くようになりましたが。祭りに行ったのですが、お金がないので風呂屋に生徒十人ぐらいと風呂代 23 円ぐらいは私の給料でおごってやれたので一緒に入って祭りの話など聞き、楽しく過ごしました。また、運動会で「だんじり」を作ってグラウンドに練りだした事など生徒はだんじりに熱心なものを持っていて、太鼓、鐘、ちょうちんなど借りてきて本格的なものになりました。城中生の人懐っこさ、都会の田舎といいますが地域性のある下町気質の城中生は今も変わらず、同窓会などで集まると思い出話に花が咲きます。

最後に尼崎中が荒れていた時代に、我慢しているんなことに挑戦してくれた城中生の力は大きなものがあったと今も思っています。

### 思い出

昭和48年卒 生田 京子

私が卒業してあつという間の32年が経ちました。私達卒業生は同窓会を3年に1度しているので会っている時は、先生、同級生とはいつも城中時代の気分にいるので、とても楽しいです。授業中の思い出は、学業があまりにも得意じゃなかったのが印象がないです。音楽担当でハーモニカが得意なジャック先生、家庭担当のモダン先生、個性のある先生は忘れません。いつも竹刀を持って校内を見回るととても怖い先生、今では信じられないことでしょう。土曜日の放課後、全学年で、フォークダンスをした時、好きな人の前で曲が終わったりして、とても残念な気分です。あの時が懐かしいです。1階の西端にある、女子トイレは、すごく広くて放課後に一人では行けない先輩に怖い話を聞いて恐ろしかったことなど思い出します。

今はとてもキレイになっているので、あの時の面影は全然ありません。あの時の制服はセーラーでスカートを長くしたり、靴のかかとを踏んで歩いたり、冬は風邪でもないのにマスクをしたり、男子は雨も降っていないのに長靴を履いて、登校したり・・・でもあの時はカッコよかったんですね？いろんな思い出がいっぱいあった城内中。本当にありがとう！



### 「城中と私」

PTA 会長 橋本智子(昭和50年卒業)

私自身の母校であり、4人の子供の内、3人がこの城中に通わせて頂きました。来年度は、新しく生まれる成良中学校に1番末の子が通う事になります。

私が通っていた頃の城中は、学校が荒れていた時代で、学級崩壊、窓ガラスはところどころ割れ、掃除の工具箱は蹴破られボロボロ。空気も悪く、よく光化学スモック注意報が発令され、体育ができなかった事もしばしば...そんな中、熱い先生はたくさんおられました。昼休みに抜け出す生徒を見回るチュウ先生、徳田先生、大門先生、面白い授業を下さった池永先生、早坂先生。怒ったら怖い山田先生、緒方先生。当時の先生方はとてもご苦労が多かったらうと今思えば、感謝するばかりです。でも、私にとって楽しかった城中。青春の一ページです。

平成10年入学した長男の時代は、私の担任だったチュウ先生が校長先生をしておられ、とても懐かしい思い出でした。

PTA に関わって7年。上和田校長先生、近藤校長先生、前田校長先生を始め、そして温かく見守って下さった先生方に心よりお礼申し上げます。城中が無くなるのは、とても淋しいですが、新しい成良中は両校のよいところを取り入れ、素晴らしい学校になります事を期待しております。



## 城内中学校の閉校によせて

金田 教子

この3月で城内中学校という名前が消えてしまうのは、とても残念ですが、これも時代の流れかなと思います。子供6人がお世話になり、無事、大きくなったのも、その時々先生方の御指導のおかげだと思っています。

長男が中1になった頃は30年以上も前になりますが、その時は中学校が荒れていた頃で、入学式には後ろの席に金髪の子達がズラリと並び、とんでもない中学校に入ってしまったなぁと思ったものでした。しかしいつの時にも熱心な先生がいらっしゃり、生徒を指導されたおかげで今日があったのだと思います。

私も20年程、中学校の門をくぐらせて頂きましたが、役員も微力ながら10年程させて頂きました。役員は仕事を持ちながらというのは大変ですが、日常の子供達の様子を見たり、先生に話を聞くことができ、友達も増え、私にとってはたくさんの思い出がありません。城内中学校、お疲れ様でした。

## 城内中の思い出

第13代校長 井関 巖

私は昭和55年度から59年度までの5年間、城内中学校でお世話になりました。当時はすでに生徒数の減少化が進み、大規模校だった城内中学校も中規模校の仲間入りを始めていました。空き教室もかなりでき、それらの有効利用が大命題となりました。校舎



の安全化のため、4階部プレハブの撤去も行われました。

そうした中、入学式から卒業式までの学校行事、補導活動を育友会長の難波様・岩佐様・天野様を先頭に保護者の皆様にご協力頂きありがたく感謝しておりました。

生徒指導については保護司・民生委員・少年補導員の皆様にも種々ご指導頂きました。また、育友会のOB会も発足し、いろいろサポートして頂きました。

今、年の流れとはいえ、我が城内中学校の校名が消えるのは寂しい限りです。教職員一同、当時お世話になった方々をありがたく思い出しながら筆を置きます。

## 思い出

昭和55年卒 新本 律子 旧姓(西山)

「城中が閉校になる」と聞いて本当に驚き、寂しい気持ちでいっぱいになりました。卒業して25年経ちますが、城中での沢山の思い出は今でも私の心の中に生き続け、まるで昨日のことのように思い出されます。部活で一緒に頑張った友だち、大好きだった英語の勝丸先生、色々な人に出会えた事は私の一生の財産になっています。

今は、東京に住んでいるので、城中の側を通りかかりなつかしく眺めるということは最近はなかなかできませんでしたが、尼崎に帰ればいつでも城中はあって、私の卒業した頃の姿そのまま温かく迎えてくれる...そんな気がしていました。それだけに閉校は本当に残念で悲しいですが、これからも城中は私の心の中にこれまでと変わらず生き続けていてくれると思います。



新しい成良中学校の門出を祈っております。ありがとうございました。

## 城内中の思い出

## 第14代校長 海藻 道夫

昭和二十二年に開設された城内中学校が今日に至る永年の歴史に終止符を打ち統合のため閉校になりますが感無量の思いが致します。

私は昭和六十年四月より六十三年三月迄の三年間校長の職を務めさせていただき、その間「自主、協同、創造」を校訓に、地域の皆様方の協力はもとより教職員が一体となって、学力向上、生徒指導、環境整備に力を注いだ思い出が蘇ってきます。

早朝の校門での声かけ指導、「あいさつ運動」によって個々の生徒がよりよい一日を送ろうとする心構えを持ち、又教師は生徒の未来を心より念じながら校内へ送る努力をしたこと、特に修学旅行では市内中学校で初めて「信州でスキー」を実施し、生徒に深い感銘を与えたこと、又教科指導研究、生徒指導推進事業の指定を受け、その成果を発表したことが思い起こされます。



一方夜間中学が併設されており、夜遅くまで色々な問題を抱え乍ら指導に邁進し心身共に疲れ苦労したこと等がありましたが、統合ということで新しい校名のもと、今まで培ってきた校風を忘れずに学校、家庭、地域が一体となり教育の充実に取り組みまれ、より一層飛躍され、発展されますことを切にお祈りいたします。



## 学力とは・・・生きる力

## 川村 勝子

城内地域は生徒の健全育成のためには地域ぐるみで協力を惜しまない、そんな体制の出来ている地域でした。子ども達は明るく人懐っこい。勉強ばかりではない、人間としての暖かさのある大人達がいて、子どもがいた。けれど学力がない、勉強しない、幼さが残りすぎ、といつも先生から言われ続けた。ではどうすれば勉強するのか、学力とは何なのか育友会で何度も話し合いました。先生の意見、親の意見、つまり子ども達の先輩の意見を聞き、皆で考え、そして結論は出た。学力とは生きる力。何かになりたい、知りたい、勉強したい、知らなければならない、それが全て生きる力、生きる事につながる。しかし私達も結果としてその大切さ気付く。子ども達が生きる力を身につけるには授業の楽しさ、学ぶ意欲を感じさせる工夫、努力がなければ身につかない。そしてそれは私達大人、先輩の責任の重大さを物語る。そんな事を大いに学んだ育友会活動でした。



### 城内中の思い出

第15代校長 河野 誠一

伝統ある城内中がこの三月で閉校になるという。来るべきものが来た！これが実感である。

戦後間もない昭和二十二年、学制改革により男女共学の新制中学校として創設され、五十有余年の歴史を刻んだ。

昭和六十年代、バブルの崩壊と共に尼崎市は人口減に入り、南部地域の生徒数は減少し、南部各中学校は小規模校となっていた。

私が城中に在職した昭和六十三年、学年の学級数は四クラス、その後も学級数は減少していった。危機感を持った私達は同じ悩みを持つ明倫中、啓明中などと、学級減対策を話し合う会議をもったが、生徒数の減少を食い止める事は出来なかった。

生徒数が減少することで、ややもすれば活気を失いがちなものだが、生徒、教職員がひとつになり学校行事、学習活動、クラブ活動に創意工夫をして取り組み“城内中生ここにあり！！”という気概を見せた。

純真で元気のある生徒達、私が校長として在職した平成五年までの五年間は私にとって充実した毎日であり、城内中に勤務出来たことを誇りに思っている。城中の卒業生の皆さん、「ありがとう。」城中卒業生の誇りを忘れず、社会に貢献されることを祈っています。

### 育友会活動に関わって

弓場 恵子

城内中学校育友会活動に関わった3年間は、とても有意義で思い出深いものでした。学校側、育友会側と見る角度による違いも知り様々な行事、多くの人々との出会い、子育てをしながら、親育てをさせてもらい、有形、無形の経験を沢山し、親子共々、勉強になりました。その過程で感じたことは、人はひとりでは生きていけません。自分がされていやな事は人にはしない、また、自分がうれしく思った事を人にしてあげると、少しは居心地よい世の中になるのではないのでしょうか。



これからの社会制度、自然環境の中でゼロから何かを創造するのに必要なのは豊かな感性と柔軟性を持ち、相互理解の出来る真の国際人を目指し、ナンバーワンではなく、オンリーワンであって欲しいと願います。

歴史ある城内中学校の名が消えるのは残念ではありますが、新しく成良中学校として、新たな歴史を築いていかれる事を祈念致します。

### PTAでの思い出

真柄 容子

育英中との統合を控え城中PTAでの思い出を書いてほしいと依頼を受けました。さて、思い返してみると、いつも和気あいあいとした中で楽しく活動していました。私が役員を努めた頃は亡くなれた上和田校長先生そして近藤校長先生がご在任でした。おふたりとも厳しい中にも愛情あふれる先



生で、校長室で会議をすることも、しばしばありましたが快く部屋を貸して下さり、適切な助言を頂いたものです。話が脱線しているんな話題が飛び出してしまうこともありました。それが、それも楽しい思い出となっています。

今年、高校を卒業する娘が城中に入学する前のことですが、当時は体操服として「ブルマ」を着用していました。娘の立派すぎる太ももを中学生になっても人目にさらすのは忍びなく、同感されたもう1人のお母さんと共に体育の前窪先生に「もう少し長めのパンツで・・・」とお願いに行きました。その年から今の「クォーターパンツ」が着用されることになりホッとしたものでした。4月から新しくスタートする成良中で未来を担う生徒たちが幸せに、そしてしっかりと生きる力をつける場所になることを祈っております。

### みな仲良し

平成6年卒 岩尾 千枝

私が城内中学校を卒業して11年が経ちました。そして統合のお話を聞き、母校の名前が無くなってしまおうという寂しさを感じながら、城内中学校で過ごした3年間の思い出を書かせて頂きます。



失礼ながら中学校の入学式の時には、殆ど緊張感はありませんでした。何故なら、生徒全員が私立中学校に進学した子を除いて、小学校の時と同じ顔ぶれだったからです。

どこか、小学校と変わらない中学校なので、2クラスしかない小さな学校でしたが、だからこそ、皆が兄弟のようにアットホームさがありました。女子特有の派閥のようなものも無く、少し不良と呼ばれるような子も、マジメといわれる子も普通に話をして、時には一緒に遊んだり、他の学校にはない「皆仲良し」を実現できていたと思います。

そんな家族のような雰囲気があった城内中学校が統合という道を辿ってしまったのは淋しい限りですが、城内中学校の卒業生には、素晴らしい学校であったということが、いつまでも心に残っていると思います。

### 城内中学校への思い出「阪神・淡路大震災」

第16代校長 里見 一郎



城内中学校で校長を務めた3年間で、一番の思い出は、6,433人もの命を奪った阪神・淡路大震災です。平成7年1月17日、午前5時46分、突然今までに経験したことがない程の大きな地震に襲われました。あれから10年経過し、平成17年1月17日には、神戸市を中心に各地で追悼式が行われました。

あの朝、尼崎市で被災した私は、車で城内中に駆けつけました。途中山幹通りでは、水道管が破裂し水が吹き出していたり、阪神尼崎駅前では、ビルの屋上から看板が落ちて道路をふさいでいました。学校に着くと、校門から玄関にかけて、敷石の間から真っ黒なヘドロが吹き出し、不気味な感じがしました。

城内中学校の校舎は、市内では被害が少ない方でしたが、水道が出ない、ガス漏れのためコックを止めている、水洗便所が使えない、校舎回りの土が陥没し配水管が使えない。

校舎に多数のヒビがある、震災で欠席している生徒がいる、遠くの先生が出勤できない、それに、弁当を作れない家庭が多い。などの理由で平常授業ができる様になったのは、2月1日からでした。



校区内では大きな被害があり、特に築地や初島地区では被害が大きく、液状化現象で多くの家が傾き、水道、ガス、電気も止まっている状態が長く続きました。

地震から4週間たった時、道徳の時間に「阪神・淡路大震災」と題して作文を書かせました。2年生のAさんが、「家族のただれが死んだという話をよく聞く、それを聞く度に命の大切さ、家族の大切さをおもい知らされたような気がする。今回の地震では、いっぱいいろんな事を学んだ。」またBさんは、「私は、自分の命の大切さを、この地震が来るまで忘れていた。安心しきっていた。この地震は、自分をそして、自分の回りで生きている人の命の大切さを、見つめ直させてくれたと思う。」と書いていました。

生徒達は、不便な生活を強いられたり、悲しい出来事が続いている中で、日頃は真剣に考えたことがなかった命の大切さを体感し、成長している事を実感しました。

## 思い出

平成6年PTA中島 一樹

原稿依頼を受けて10数年ぶりに育友会活動の時のことを改めて思い出させて頂きました。初めて育友会長になった時、役員になってもらうのに、大変苦労しましたが、一旦引き受けられたら、独特な活動で頼りない私を引っ張って楽しい育友会活動をさせて頂きました。また、何時かの体育大会では、紅白玉入れ競争(?)で里見校長先生と私が、赤と白のカゴを背負って生徒たちに追いかけてまわされ大変しんどかった事も忘れられない思い出の1つです。

私事では入学式・体育大会・卒業式等の挨拶文の作成に何日か、かけて苦しんだ事、アガリ性の私はお祝いの挨拶で緊張と興奮で足がガクガクするのを必死で止めながらしゃべった事、今思えば懐かしく思わず苦笑いです。

粗辞ながら、新生「成良中学校」の発展を祈りつつ「かたらい」へのお礼を申し上げます。

## 城内中学校の閉校に際してちゅう先生を偲ぶ

1996(平成8)年4月、ちゅう先生はちゅう校長先生となられ、再度、否、3度目の城内中学校勤務に着かれました。5月に入ったある日、私は年度始めの輻輳していた事務が少し片付いていたこともあって校長室に行き、校長の教育方針、指導方針について話を聞いておりました。学校予算の編成前に校長の学校経営方針を知っておく必要があるからです。そうした話の後、ところで創立50周年の行事はどうされますかとたずねると即座に「やるで。せんわけにはいかんがな」他校のように派手に、豪華にはできないけれど、質素にやれる範囲でやれば良いと思

## 元事務職員 濱本 正彦



っている。とのことだった。今までは金がない、資料もないのでできないと聞かされてきたので、ちゅう校長の「やる」という英断には正直驚きました。日を置いて50周年記念行事についてちゅう校長先生と話し合いをしたとき、例年の学校行事である文化祭と同時進行で準備をしてゆくと、教頭先生をはじめ先生方は全員、文化祭の準備にかかっておられるので50周年行事の準備に教員を割り振ることはできないと言われ、ちゅう校長先生は私に手伝ってくれるかと言ってこられたが、自分ひとりでも準備するつもりの方だった。

当時の学校事情を考えると「ハイ」と言うしかなかった。当初は質素に内輪の行事として記念式典を行い市長や教育長の招待も遠慮しておこうと言っていたのが、準備が進み、概要が見えてくると教育長さんは今から頼んでも来てもらえるのかなとなった。教育長を招待して学校設置者の市長を招待しないのはおかしいですよと言うと、それもそうやな、「まかす」ということになり、遅ればせながら市長（秘書室）をお願いに行った。市長本人は予定が固まっているので無理ですが、助役を代理で出席できるよう調整してみますと言



ていただきました。その結果、城内中学校創立50周年記念式典は市長（代理で助役）と教育長のご来臨を賜り祝辞を頂きました。また、関係学校長をはじめ、地域のご代表、育友会OBの方等、多数の方のご来臨を賜り、質素ながらも盛大に式典を挙行し得たのはちゅう先生のお蔭であると思います。

泉下のちゅう先生に感謝しちゅう先生を偲びつつ筆をおきます。

### 思い出

### PTA 寺岡 陽子

校門の前に立つと、なる程、お城の面影を感じる、市内に22校中学校があるが、校名に城が付くのは“城内中学校”だけだ。と聞かされて誇りに思ったものだ。小規模校故、先生方も、全校生徒の名前と顔が一致するという家庭的な雰囲気の中で、保護者とも和気あいあいとして共に子どもたちを育てて下さった。

当時、生徒指導の前窪先生が、不登校の生徒対応に苦慮されていたことがあった。その生徒は、とうとう全く登校せずに卒業になった。先日、私は成人したその生徒と会話する機会があった。「中学校も行かず男の人と付き合っ、子どもを産んでしまったら、おばさんも反対するでしょう。」「そうね。でも今こうして子どもをしっかりと育てているんだものえらいよ。子どもさんは、中学校にはやってね。頼むよ。」と云ったら、笑っていた。前窪先生には是非あの生徒が、常識のある大人になり、子育てをしていると伝えたくかった。

### 城中への想い 第18代校長 近藤偉一郎

私は城内中学校に平成十一年四月から三年間勤めました。城内中学校の校舎は伝統と歴史のある学校です。学校の校舎にいろいろの思いを持った方々がいらっしゃいます。それは高等女学校、市立尼崎高等学校、城内中学校と代々校舎が使われ、多くの卒業生を送り出してきました。卒業生の中には懐かしく想い「同窓会で使わして欲しい」と申し出があ



ったりしました。

校門を入ると玄関前中央に、尼崎城の天守閣跡の碑があります。この碑の見学にも多くの来訪者があり、地域に親しまれた中学校です。PTAの方々もたいへん協力的で学校行事へも積極的に参加され、ありがたく思いました。このような地域に育った生徒たちは人懐っこく、何事にも熱中し、学校生活においても落ち着いた、明るく、快活な生徒でした。

生徒たちが自由に使えるオープンスペースとして、憩の部屋を作り、読書や遊び、談話など自由に使えるようにしたところ、大切に部屋を活用してくれました。

文化発表会では、環境をテーマにした劇は好評を拍し、また体育大会では全校生が一丸となって組み体操をし、中でも立体ピラミッドは生徒と教師が心を一つにした結果の素晴らしいものでした。生徒と教師の信頼関係の良さは城内中学校が一番だと自負してよいと思います。

これから統合になっても、この「城中魂」を持ち続けてくれることを信じ、願っています。



#### 「ありがとう」 平成14年卒 山本 有香



私にとって母校が無くなるのはこれで2度目です。城内小学校が統合したときも寂しかったけど、小学校よりも思い出のある中学校が統合すると聞いた時は信じられませんでした。

友達と笑かし合った教室も、ケンカした部室も、白熱したうんどうかいを繰り広げたグラウンドも、全部城中じゃ失っちゃうんかぁ...と思うと、今でもやっぱり寂しいです。「目立ちたいから」と言う、今考えればふざけた理由で入った生徒会での経験は今でも確実に私の役に立ってるし、数え切れない思い出がある城中が、私は大好きです。でも、尼っ子は皆元気で明るくていい子ばかりなので、次の成良中学校でも皆大事な事をいっぱい学んで、卒業する時に「あー楽しかった！成良でよかったなぁ」と皆が口を揃えていようなすてきな学校になると思います。そうやって、名前は変わっても城内の伝統を受け継いで、歴史を作っていってほしいと思います。

#### 思い出

#### 平成17年卒 森中 陸

僕は3年間いろいろなことがありました。その中で1番印象に残っているのが入学式です。このときに、生徒会長の大変さが解ってきました。でも、クラスのみみんなに協力してもらい、間違えずに言える事ができました。そして、生徒会長のあいさつが終わったとき、僕はすごくうれしかったです。そして、入学式が終わって、次は楽しみにしてた修学旅行です。飛行機で長崎まで行きいろいろな博物館を見てきました。





博物館では普段見られないものが見られたり、長崎の歴史を知る事ができたので、僕は行って良かったと思います。ホテルでは、みんな歩き回って疲れているはずなのに、夜は騒がしく、ホテルのお客さんに怒られました。僕の部屋もうるさかったので、先生方に怒られましたが、長崎の事をよく知れてよかったです。

### 城内中学校の思い出

平成17年卒業生保護者 阪本 紀子

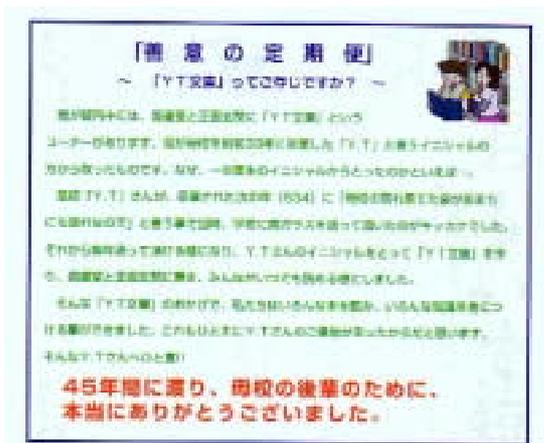
この度の我が子の卒業が、城内中学校の歴史的な幕引きと重なり、とても思い出深い年となりました。

いつも地域と密着し、開かれた学校というイメージそのものでした。職員室や校長室は敷居が低く、先生方とも距離が近く、気軽にお話させて頂いたことが印象に残っています。残念ながら、昨今の物騒な事件から門を閉めざるを得なくなりましたが、門が閉まったおかげでこんなエピソードがありました。それは、ある雨の降る役員会の日、傘と自転車を片手で持ちながらチャイムを押すと、福原教頭が出迎えてくださり、わざわざ出来たばかりの屋根付きの自転車置き場を使うように勧めて下さいました。このことは後々まで私にとって心地良い思い出となりました。

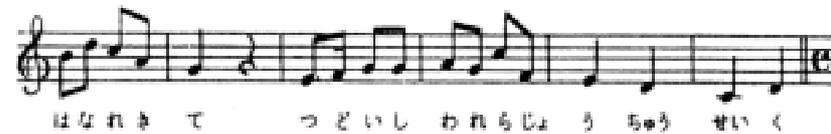
成良中学生としてスタートをきられる在校生の皆様方、御尽力賜る先生方に心よりお祝い申し上げます。

ありがとう Y・T さん！！

温かく見守られた城中が幕を閉じます。  
本当にありがとうございました。



【校 歌】 School Song



校 歌

平野 正夫 作詞  
岩竹 洋子 作曲

黎明の空紺青の かすみ たなびく 長洲野に  
都の塵をはなれ来て 集いし我ら城中生

久遠のゆめを胸にひめ

清きいのちを培わん

愛と自由のはぐくみに 響も香る学び舎の  
若き血潮は高鳴りて 沈黙を破り風を呼ぶ

あつき心は友や知る

いざやためさん我が力

ああうら若き我が友よ この三年こそ人の世の  
こよなく深き思い出を 理想に結ぶ縁なれ

たとへ年月過ぐるとも

忘るるなかれ今日の目を